

Check!

# 「スクール・ポリシー」とは何か？

※参考資料「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」

近年、  
高校を取り巻く  
状況

すべての生徒の可能性を引き出す、  
多様かつ質の高い教育が求められている

- 高校進学率が99%を超え、多様な入学動機、学習経験などさまざまな背景をもつ生徒たちが在籍している。
- 生徒の興味関心や状況に応じた「個別最適な学び」や、地域の方をはじめ、他者との「協働的な学び」が求められている。
- 社会の急激な変化や少子化の進行を踏まえ、地域社会と協働しながら、これからの時代を生き抜く力を育成する必要がある。

学校内外の関係者との  
連携・協働がますます必要

高校ごとの教育を  
精選・重点化する指針が必要

特色化と  
魅力化を  
図るための課題

従来の学校教育目標は、  
抽象的で特徴がわかりにくい、校内外への共有・浸透が十分ではない  
といった指摘もある。

今  
求められて  
いること

高校の設置者 高校の存在意義や期待される社会的役割  
=「スクール・ミッション」の再定義

各高校 特色・魅力ある教育を行うための入口から出口までの教育活動の指針  
=「スクール・ポリシー」の策定

①グラデュエーション・ポリシー  
育成を  
目指す資質・能力に  
関する方針

②カリキュラム・ポリシー  
教育課程の  
編成及び実施に  
関する方針

③アドミッション・ポリシー  
入学者の受入れに  
関する方針



スクール・ポリシーに定める内容は、  
従来より高校内で言語化されずに  
取り組まれていたものがあるかもしれない。

改めてスクール・ポリシーを  
言語化するプロセスそのものに  
「協働」のヒントが？



## Question

# 先生方に、ご意見を聞いてみました。

高校の目指す姿を「あえて言葉で表し、共有し合う」ことで  
どんな効果が期待できるでしょうか？

あえて立ち止まり、自分たちや生徒、学校を見つめ直すプロセスが大事だと思います。それを避けて、校訓や既に作成済みの「目指す学校像」などを切り貼りするようでは、誰にとっても納得できるものにならない。公表されたものを比較すると、学校としての熱量を見ることができると思う（新潟県・公立高校・学年主任・40代）

校外に対しては、改めて学校の姿勢を示すことで中学生の学校選びに役立つほか、自治体や企業等と外部連携を図るうえで、協力関係が築きやすくなる。スクール・ポリシーを示すことで、外部の方も、どの学校にアプローチすれば良いのかわかりやすくなる（山形県・公立高校・進路指導担当・40代）

「言葉で表し、共有し合う」ことそのものよりも、そこに至る過程で教員や生徒や保護者で議論し合えたら、「自分たちが学校を作り、より良くしていくのだ」という当事者意識が生まれるのではないかと（長野県・公立高校・クラス担任・50代）

目指す方向性を揃え、共有し合うことで、一人では変化させることや、やり切るのが難しいことも実行できるようになります。変化させるのは大変なので、支え合うことは非常に重要です（石川県・私立高校・教務担当・30代）

管理職と教員に「学校を改革しなければならぬ」と合意が取れるなら、学校改革のツールとなる（大阪府・公立高校・進路指導担当・60代以上）

言葉にすることによって、各高校の方向性の違いがはっきりすると思う。熟語が3つというような校訓もよいが、抽象的すぎる。「スクール・ポリシー」という文章にすることで、特徴が明確になるのではないかと。なんとなく伝統だと言われていたものが、浮き上がってくる気がする（岡山県・公立中高一貫校・60代以上）

「こうした生徒を育てたい」「この学校はこういう学校だ」という感覚は、実は人によって違います。言語化することで確認できるのは良いこと。ただし、一回作ったものでも検証が必要です。一度手間をかけて作ってしまうと、学校現場ではそれがずっと生きることがあります。その都度、みんなで考える。作ることそのものよりも「考える過程」に意味があるのではないかと（青森県・公立高校・校長・50代）

漠然とした文字だけの状態から、具体的にどのように生徒を指導していくか、再考するきっかけとなる（宮城県・私立高校・50代）

学校が育成する資質・能力と、生徒自身が育成したい資質・能力のミスマッチを減らすことができる（福岡県・私立高校・教務主任・40代）

コロナ禍で行事のあり方が変わるなか、行事をやる意味や意義などを考え、行事の精選をする際の基準となる（千葉県・公立高校・学年主任・40代）

中学生が受験校を選ぶ一つの参考になり、高校入学前から自らのキャリア形成を考えるきっかけとなる。保護者や地域の方々に対して、本校の教育活動への理解を深めてもらう契機となる。また、働き方改革の側面から考えたときに、高校として目指す生徒像に照らし合わせて、必要な業務とそうでない業務を検討し、無理のない学校経営を実現することができると思う（沖縄県・公立高校・クラス担任・30代）

具体的、かつ簡潔に示すことで、ますます激化する生徒募集にも大きく影響すると思います。中学生や保護者、地域から選択される学校であるためには、魅力あるスクール・ポリシーの設定は重要な項目（北海道・公立高校・教務担当・50代）

あなたは  
どう考えますか？

「キャリアガイダンス」編集協力委員の先生方へのアンケートより抜粋

